

春を待つ棚田

西岸駅

おまきかぎのえき
小牧風駅

小雪が降る2月中頃、七尾駅から、のと鉄道の電車に乗った。国道249号線にほぼ沿うように電車は走っている。車窓から見える景色をぼんやりと眺めていると、前方のなだらかな斜面に棚田の風景が広がっているのが見えた。

その景色につられるように電車からプラットフォームに降り立った。ここは西岸駅である。駅名を示す標識には西岸駅のほかに「小牧風駅」という名前が書かれている。最近付けられた愛称名らしい。このあたりに小牧という風が吹くのであろうか。線路には雪が残っていて、それが、白い道のようなのである。ホームの脇に



のと鉄道西岸駅



は、桜の老木が並び、雪の晴れ間にほのかな水色の空が見えた。ひなびた駅を後にし、棚田の方へ向かうことにした。

中島町小牧と中島町外

おまき
そで

このあたりは、駅名のとおりに西岸という地区である。東は七尾北湾と西湾に面し、西には風光明媚で知られる標高358メートルの別所岳がある。

棚田がある場所はそのなかの「小牧」と「外」という地区であり、山と海岸の間に挟まれている。

言い伝えによると、「小牧と外は、昔は長前ながさきという一つの地区であったらしい。それが、この地区をふたつに分けることになり、両地区の代表者はその相談のため、中央で待ち合わせることになった。待ち合わせ場所に行くのに、小牧の人は牛で、外の人は馬で出かけた。そのため、当

然、牛で出かけた小牧地区の方が、遅れをとり、外地区の土地が広がった。」ということである。

その名残なのだろうか、昔から行われている伝統行事の虫送りむごりは、通常は一つの地区で行われることが多いのだが、ここでは、両地区合同で行い、地区の境目で合流するそうである。

棚田から見える七尾北湾

棚田のほぼ中央には小牧から外に向かつて一本の道が走っている。そこを歩いていくと、近所のお年寄りが散歩していた。案内されるように小牧から外に向かう後をつけて行く。山側の田には稲刈りを終えたままの稲架いねがが残っている。田に積もる雪